

令和元年度  
市民提案事業 活動報告書

市民との協働によるまちづくり提案事業



令和2年8月  
(八女市役所 企画政策課)

令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業採択団体

	団体名	活動の名称	活動の概要	ページ
1	八女徐福会	八女の徐福文化を世界に。世界無形文化遺産登録を目指して	徐福文化の世界無形文化遺産登録を目指す活動の一環として、イベント各地で徐福バッジ・パンフレットの配布を行う。また、徐福文化啓蒙のための講演会実施や、今回新結成した徐福小劇団が各地で徐福劇団の出前講座を行い、徐福文化の普及を行う。	2
2	クマノスの愉快的仲間達	八女杉を身近に感じてもらうプロジェクト	いつでも誰でも簡単に八女杉の端材を使って工作ができる拠点をつくり、八女杉の新たなアピールを行う。また、ワークショップで木を使ったイベントを開催する。今年は通常時の利用者を増やすため、チラシ配布やSNS発信等のPR活動にも力を入れる。	5
3	日本野鳥の会筑後支部	八女市矢部村に飛来するブッポウソウの営巣調査研究	希少種のブッポウソウが矢部村に5年続けて飛来し、営巣や繁殖が確認され、今後さらなる飛来増が期待される。安定して飛来するよう巣箱の設置や調査・研究を行い、観光客の増加や村の活性化につなげる。	7
4	NPO法人がんばりよるよ星野村	竹林整備と竹資源の活用	放棄竹林を整備し、竹をパウダー化し、肥料として近隣農家に配布したり、発酵肥料を作製する。また、竹皮編みの創作ワークショップを開催し、資源の再発掘を行う。	9
5	いにしえの道を復活させる会	いにしえの道を復活させるプロジェクト	上陽町下横山地区からグライダー山を通して久留米市草野町に繋がるいにしえの道を、トレッキングコースとして活用し、イベントを開催する。環境の整備や案内板の設置、広報周知活動を行う。	11
6	ヤメコンバレー実行委員会	YAMECONVALLEY (ヤメコンバレー)	福岡で注目されている「フクコン」の手法を取り入れ、八女地域において、まちを面白くするアイデアを出し合うブレインストーミングイベントを開催する。地域の活性化に繋がるプロジェクトを生み出すことを目的とする。	13
7	LightUpShow実行委員会	燈 TOMOSHIBI	異業種で協力して、光の演出を取り入れた祭りを開催し、八女のPRや地域活性化、文化の交流を図る。売り上げは全額寄付金にするなどチャリティ出店も行い、地域復興に役立てる。	15
8	八女ファミリー林業塾	八女ファミリー林業家育成事業	地域の森林を長期的に管理し、守り育てていく林業家（＝ファミリー林業家）を育成することを目的とした講演会や、実技・演習を行う。地域に根付く林業家を育成することで、移住・定住の促進に期待できる。	17
9	八女福島文芸座	ふくしま元気もん祭り～第2の人生いきがづくりプロジェクト～	生涯学習を行っている団体を集めて、活動成果発表会を実施する。発表を通じて、新たな人とのつながりが生まれ、各団体の活性化が期待できる。また、退職される方に活動団体を紹介し、マッチングできる交流の場を提供する。	19
10	劇団「大藤」	「剣ヶ淵物語」再興プロジェクト	黒木町で語り継がれている「春日と助能」の物語をオリジナル音楽劇として上演する。また、劇を通じて市民の方に地元の歴史を触れてもらい、郷土愛を育む。	21

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

### 八女徐福会

～八女の徐福文化を世界に。世界無形文化遺産登録を目指して～

## ○団体情報

### <設立目的>

八女市山内の童男山古墳に残る徐福伝説「童男山ふすべ」を通して、八女市に残る徐福伝説をさらに発展させ、徐福の研究と顕彰活動を行い、日本・中国・韓国等の徐福会、研究会、研究者との国際交流活動を進め、さらに童男山・犬尾城址保存会と協力して「童男山ふすべ」の保存継承を進めます。

### <団体の構成員>

約35名

### <設立年月日>

平成25年4月27日



## ○これまでの実績

### ・国際徐福団体交流活動

徐福文化の世界無形文化遺産登録を目指し、中・韓・日の3カ国の徐福団体と協力して中国・韓国で開催された国際徐福文化シンポジウムに参加、八女に伝わる徐福文化を紹介したパンフレットや徐福バッチの配布を行い、八女の徐福文化を発信しました。

#### 令和元年

- 6月6日—9日 中韓日国際徐福文化シンポ参加発表（韓国南海郡）
- 6月9日—10日 日中韓莞島徐福研究準備会と交流（韓国全羅南道莞島郡）
- 10月5日—6日 中韓日国際徐福文化シンポ、国際文化祭参加（韓国済州島）
- 10月25日—28日 中韓日国際徐福文化シンポ3名参加、発表（中国連雲港市）

#### 令和2年

- 1月20日 童男山ふすべ、八女徐福会・咸陽徐福研究会交流会（ふれあいの家）

### ・国内徐福団体交流活動

平成31年4月13日鹿児島県いちき串木野市開催の徐福花冠祭参加、令和元年12月

1日には筑紫野市で初めて徐福フォーラムが開催され、徐福劇の公演等全面的に協力を行いました。12月15日には八女徐福文化講演会を岩戸山歴史交流館で開催、徐福会会員、佐賀、筑紫野徐福関係者をはじめ一般市民も多くの参加がありました。1月20日には韓国慶尚南道咸陽郡徐福研究会、咸陽郡庁の10名が八女市を訪問、ふすべ行事に参加、交流会を行いました。

さらに、日本徐福協会と協力して全国各地の徐福伝承地を紹介する巡回パネル展が山梨県富士吉田市、京都府伊根町で開催され協力を行いました。

また、徐福缶バッジを作成、内外の交流活動時、さらに、川崎小学校児童、地域イベント参加者、童男山ふすべ、八女オルレコース遊歩参加者にも配布を行い、八女の徐福文化の発信を行いました。

## ○活動概要

八女市山内の童男山古墳に残る徐福伝説「童男山ふすべ」を通して、八女市に残る徐福伝説をさらに発展させるとともに、徐福の研究と顕彰活動を行いました。

## ○具体的な内容

八女徐福会内に結成した八女徐福座は市内の老人施設、老人会、各種イベントに積極的に参加、9月から9回の公演を行いました。1月からはコロナウイルス感染防止のため活動を休止しています。

9月8日 上陽町光陽のさと（約40名）

9月22日 八女市北田形敬老会（約70名）

10月27日 八女市川崎よか祭り（約200名）

11月9日 広川町はなやぎの里（約30名）

11月23日 黒木開発センター里心敬老会（約200名）

12月1日 筑紫野徐福フォーラム（約70名）

12月15日 いわいの郷 八女徐福講演会（約50名）

12月17日 広川町はなやぎの里（約30名）

12月21日 上陽町光陽のさと（約40名）

令和2年1月よりコロナウイルス蔓延防止のため活動休止

### ・活動の成果と問題点

平成30年、31年、令和元年度と3年間にわたる、市民との協働によるまちづくり提案事業の結果、国際交流活動では徐福文化の世界無形文化遺産登録を目指して開催される中・韓・日での国際協議会、シンポジウム等に積極的に参加し、さらに、中国徐福会・韓国徐福会・日本徐福協会と協力して、世界無形文化遺産登録に向けての各国政府機関への働きかけや雑誌、新聞などのマスコミを通じて啓発を行いました。その結果、2020年

10月に中国政府内に世界無形文化遺産登録にむけて、中・韓・日協議会の連絡事務局が正式に発足し、各国の連絡調整を担当することとなりました。

八女徐福会ではさらに、6月韓国、10月韓国・中国で開催のシンポジウムに参加、韓国では八女市の観光パンフレット、徐福バッチ、八女に伝わる徐福文化を紹介したパンフレットを配布するとともに八女茶の試飲を行い好評を得ました。さらに、八女オルレコース来訪者、各種イベント時に徐福バッチの配布を行いました。また、12月には徐福文化啓蒙のため、徐福文化講演会を岩戸山歴史文化交流館で開催、八女の徐福文化を発信しました。さらに八女徐福会内に徐福小劇団を結成、各地区のイベントや老人会、社会福祉施設等に徐福劇団の出前を行い、徐福文化の浸透を図りました。

三年間の中には、中・日、韓・日の国際関係の悪化により、交流の一時中断や延期もありましたが、それを乗り越えて交流を深めていきました。しかし、令和2年のコロナウイルスの感染拡大に伴い、現在、中・韓・日の直接交流は途絶えています。SNSやメールなどでの情報交換などの交流は続けています。

## ○今後の方向性

日本では登録に向けての徐福資料の基本調査に取り組むことを、日本徐福協会を中心に進め、さらに三カ国との協議を続けていきます。八女徐福会では八女市に残る徐福伝説をさらに発展させるとともに、中・韓・日の3カ国の徐福団体と協力して世界無形文化遺産登録を引き続き目指します。啓蒙活動の一つとして八女に伝わる徐福文化を世界に発信するため、八女オルレコース来訪者、各種イベント時に徐福バッチの配布を行うとともに、中・韓・日で開催される国際協議会やシンポジウムに参加し、バッチ、パンフレットを配布するとともに、八女の徐福文化を発信します。また、徐福文化啓蒙のため、徐福文化の講演会を開催、さらに徐福小劇団をさらに充実させ、佐賀県徐福観光振興会劇団「徐福さん一座」と連携して各地に徐福劇団の出前を行い、徐福文化の浸透を図っていきます。

さらに、今年度は徐福文化発信の活動をより積極的にするために、八女徐福会のNPO法人化をめざして研究を進めていきたいと思えます。

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

クマノスの愉快的仲間達

～八女杉を身近に感じてもらうプロジェクト～

## ○団体情報

### <設立目的>

八女杉を使って遊んだり工作したり、イベントを行ったり、八女杉を使った遊びを発信する拠点を作る。

### <団体の構成員>

10名

### <設立年月日>

平成30年3月20日



## ○これまでの実績

八女杉を身近に感じて貰うプロジェクトとして下記の事に取り組む。

- ・DIYを行える拠点を作る

平成30年7月より開始

下記取り組みを令和元年7月27日にイベントとして実施(参加人数約150人)

木工職人さんやアーティストに協力頂き、イベントを開催。

- ・八女杉を使った楽器や、食器等のDIYキットの製作。
- ・今までは捨てられていた端材の販売を行う事で新しい価値を見出す。

## ○活動概要

木工やDIYの拠点を作り、木材(端材)やキットの販売、イベントを行う事で八女杉を使ってDIYが行え八女杉の端材が買える所が有る事を八女市内外に発信し、多くの方に八女杉の良さを知って頂くと同時に新しい価値を作り出して行く。

## ○具体的な内容

### ◆イベントを開催

- 名 称 八女杉で食を楽しむクマフェス
- 開催日 令和元年7月27日(土) 15時～20時30分
- 会 場 クマノス(八女市亀甲256-1)
- 参加者 約150人(うち、ワークショップの参加者は約40人、DIYルームの利用者は約37人)
- 内 容 家具職人や木工所、地域おこし協力隊等に協力いただき、以下のワークショップを展開した。
- ・八女杉を使ったコーヒードリップスタンド作り
  - ・八女杉を使ったスプーン作り
  - ・八女杉のカホン作り(楽器)
  - ・八女杉の端材販売
  - ・地元の美味しい料理販売
  - ・ふれあいコンサート(地元ミュージシャン)

### ◆通年事業

- ・DIYを行える拠点の設置
- 誰でも利用可能なDIYルームをクマノスの店舗横のスペースに設置。また、同所にてDIYキットや八女杉の端材販売を行った。

### ◆成果

八女杉を使った色々なDIYキットを企画し実現化をした。

イベントを通して様々な人との繋がりが出来た、今後のイベント等の企画を話し合い更に面白い企画を計画、実行して行きたい。

### ◆課題

イベントの告知や集客が大変だった。(初めてのイベントでDIYだけだと、集客に不安があった為飲食イベントと共に開催。)

## ○今後の方向性

現在はまだまだ、利用数や話題性は低いが、引き続き拠点としての活動を継続し、八女杉のDIYを求めて来店されるお客様が多くなる様に取り組んで行きたい。

また、木工職人との商品開発等も継続して新しいキットの発売も目指して行く。

今後も長く続けて行く事で八女杉の端材販売を行い、DIYを行うのはクマノスとなる様に続けて行きたい。

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

日本野鳥の会筑後支部

～八女市矢部村に飛来するブッポウソウの営巣調査研究～

## ○団体情報

### <設立目的>

「野鳥も人も 地球のなかま」いっしょに地球の明日を守りましょう！

筑後地区をテリトリーとして、自然と野鳥にふれあう探鳥会、生息調査などの調査・研究活動、地域の自然を守り、地球の明日を守る自然保護活動を行っています。

### <団体の構成員>

筑後地区を主とした会員 162 名

### <設立年月日>

平成元（2001）年 4 月 15 日



筑後の鳥イカル（まめわり）の  
チョコちゃん！

## ○これまでの実績

- ① 平成 29（2017）年ブッポウソウ巣箱 4 個（体育館側面の雨水排水塩ビ管に 2 個、笹又橋上流左岸の有線 TV 電柱に 1 個、西園橋上流左岸の有線 TV 電柱に 1 個）取付。
- ② 同年 6 月 18 日に広島県尾道市のブッポウソウの繁殖地の巣箱架け・営巣状況視察。
- ③ 平成 30（2018）年 4 月に尾道市より矢部村のブッポウソウ営巣状況確認・指導
- ④ 平成 30（2018）年 6 月 30 日ブッポウソウシンポジウム（広島県三次市）参加
- ⑤ 平成 30（2018）年 6 月マナーを守っての看板の設置（笹又橋、西園橋）

## ○活動概要

ブッポウソウが安心して飛来し、営巣・育雛できる環境を保全し、ブッポウソウの村づくりのために、ブッポウソウの巣箱かけ。情報収集。調査（飛来数、番数、営巣・育雛～巣立ちの観察と記録）、マナー（<sup>つがい</sup>番（ペア）となる時期には、巣に近寄らない。大きな声を立てない）などの呼びかけを行った。

## ○具体的な内容

◆スケジュール ※（ ）中の人数は、参加者数。

4月 ・巣箱をかける場所の選定と、木柱（杉丸太）の手配、防腐加工。（5人）

・木柱立て、巣箱4個を木柱に取付（矢部村源流公園日時計広場）（3人）

5月 ・番（つがい＝ペア）確認：1羽のみのままで番相手の確認出来ず。（5人）

7月 ・育雛確認：結局・番の相手が現れず、交尾、抱卵、育雛無し。（7人）

・渡去確認：7月9日の確認では、居なくなっていた。

前年は、3羽の飛来であったので、今年度は4羽・2番を期待したが、期待に反して1羽だけの飛来に終わり、初めて営巣無しの年となってしまった。

※7月14日ブッポウソウサミット in 岡山県吉備中央町に参加（3人）

※なお、令和2（2020）年度は、4羽の飛来が確認されたが、営巣は、西園橋の橋桁の1番だけで、もう1番はどこに営巣しているか未確認（新型コロナウイルスで、調査自粛と、長雨もあり、7月18日現在）で、8月6日の再調査では、親鳥2羽は確認したが、ヒナの確認も、巣への出入りも無く、地元「杣のふるさと文化館」の栗原館長に電話したところ、7月末に「カラスが巣内の雛を襲い、雛は食べられた（地元の人その様子を確認）」という、誠に残念な結果となっている……

### ◆成果

巣箱4個を矢部村にある矢部川源流公園にかけたが、ブッポウソウが1羽だけの飛来で営巣のない年になったが、ブッポウソウサミットでは、岡山や広島などの巣箱かけ先進地でも、巣箱を利用するまで数年かかったということで、元気をもらった。

### ◆課題

- ・営巣が、橋の桁穴だけである。（巣箱を設置したのに利用されずにいる）
- ・橋桁にカメラを設置しての巣内観察が、県の許可が得られず観察が出来ない。
- ・巣内のヒナのカラスの捕食対策（穴の大きさを小さくするなどの検討）
- ・より密接な地元との協力による取り組み促進。

## ○今後の方向性

助成事業は令和元（2019）年で終了したが、日本野鳥の会筑後支部としては、今後も観察・調査を継続し、地元と協力して「ブッポウソウの村づくり」を進めて行きたい。

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

NPO 法人がんばりよるよ星野村

～竹林整備と竹資源の活用～

## ○団体情報

### <設立目的>

自然災害や事故により被害を受けた、星野村の自然や人々が作り上げてきた里山の再生。都市農村交流のネットワークづくり、官民共同で未来に向けた星野村の復興、活性化を目的とする。

### <団体の構成員>

50名

### <設立年月日>

平成26年2月10日



## ○これまでの実績

平成30年から竹林整備とカシロダケの竹皮編みワークショップを実施。

### ・竹林整備

放棄真竹竹林の整備を年間13回実施。参加延べ人数93名。

### ・カシロダケ竹皮編みワークショップ

年間4回（4ヶ所）で開催。

星のまつり会場でのワークショップには沢山の方の参加があった。

## ○活動概要

荒廃した放棄竹林を整備し、景観保全と獣害防止を目的として、広く村内外からの参加者を募り、体験活動を行うことで都市との交流環境をつくる。

副産物として、竹皮の利用、タケノコの商品化や竹パウダーの肥料化などを進める。

## ○具体的な内容

### スケジュール

#### (ア) 竹林整備

①	4月6日、7日、14日	20名
②	6月8日	5名
③	7月6日、23日、24日、25日	36名
④	11月12日、13日、14日	15名
⑤	2月8日	11名
⑥	3月20日	4名

#### (イ) 竹皮編みワークショップ

①	7月23日～25日	《ていちゃんげ》でワークショップ。
②	11月10日、11日	星のまつり会場でワークショップ。
③	11月13日～14日	《ていちゃんげ》でワークショップ
④	11月15日	矢部社協でワークショップ。

### 成果

- ・竹林整備や竹皮編みワークショップに参加者した殆どの方が皮白竹の事を知らなかったのが少しでも周知できた。
- ・竹皮編みワークショップを星のまつり、和太鼓フェスティバル会場で行ったので、星野村の若い人にも、地元の魅力を伝えることができた。
- ・竹パウダーの発酵母材をつくっていることで、八女市役所から生ごみ処理の「くうたくん」の母材の供給のオファーがあった。

### 課題

- ・竹林や竹の需要がほとんどなく、益々増殖して放棄竹林が増えていく。防災面や獣害等様々な問題をひき起こして行くので、市としても抜本的な対策への取組が必要。

## ○今後の方向性

- ・竹林整備で伐採する竹を粉碎して、肥料としての利用を進めたい。
- ・八女市の生ごみ処理「くうたくん」の母材としての供給を実施。
- ・竹皮編みワークショップ°を続けることで、地元竹林の歴史や需要についての勉強を続けて、日本の伝統工芸品の材料としての見直しを進める。
- ・特に秋の星のまつりでのワークショップは好評であったので継続する。
- ・矢部村でのワークショップも継続し奥八女の特産品としてのカシロダケの周知に努める。
- ・竹林整備に広くボランティアを募集して都市農村交流を活発にしていく。

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

いにしえの道を復活させる会

～いにしえの道を復活させるプロジェクト～

## ○団体情報

### <設立目的>

使われなくなって60年以上になる上陽町横山地区から久留米市草野町までの交通の道を復活させて、トレッキングコースとして復活させて利用していただく事を目的とする。

### <団体の構成員>

令和元年 23名

### <設立年月日>

平成30年7月14日



## ○これまでの実績

八女市上陽町下横山地区と久留米市草野町を繋ぐ交易の道として使われていた道が、使われなくなって70年近くたち、歩く人もなくなり、荒れて不明になっていた道を探索、整備して「いにしえの道」として案内板も設置し、グライダー山まで安全に迷わずに歩けるようにトレッキングコースにした。

## ○活動概要

いにしえの道のコース整備といにしえの道トレッキングの開催  
いにしえの道のガイド役

## ○具体的な内容

### ◆活動内容

令和元年	6月 8日 (土)	いにしへの道整備・案内板設置
	8月10日 (土)	いにしへの道モニタートレッキング
	9月28日 (土)	台風17号後のコース視察と整備
	10月12日 (土)	いにしへの道整備と不法投棄物引上げ
	11月 2日 (土)	第1回いにしへの道トレッキング開催 みんなの館(八女市上陽町下横山)～グライダー山(久留米市草野町)～耳納平～おぼろ大橋～みんなの館 参加者23名、会員15名の計38名
令和2年	3月13日 (金)	八女市体験プログラム「いにしへの道を登る」コース 下見
	3月29日 (日)	八女市体験プログラム「いにしへの道を登る」 ガイドで会員3名

### ◆成果

いにしへの道のコース整備を行い、第1回いにしへの道トレッキングを開催することができた。また、八女市の体験プログラム「いにしへの道と登る」にもガイド役として会員3名が参加し、案内役を務めることができた。このような活動により、個人や数人でグライダー山まで登られる方々が増加してきている。

### ◆課題

いにしへの道を復活させる会の会員の高齢化が進んでいるので、新しい会員の加入を図り若年化を図る必要がある。

## ○今後の方向性

新しいルート「桑川内コース」の整備や、久留米市草野町までのルートを使って、下横山地区から草野町までの周回コースの案内などを計画していく。

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

ヤメコンバレー実行委員会

～YAMECONVALLEY（ヤメコンバレー）～

## ○団体情報

### <設立目的>

筑後/八女地域において、協働で活力を生み出すまちづくりをする為、まちを面白くするアイデアを出し合うブレストイベントを定期的で開催し、地域の活性化に繋がるプロジェクトを生み出していく事を目的とする。

### <団体の構成員>

5人

### <設立年月日>

2018年1月13日



## ○これまでの実績

毎回30～40名程の参加者があり広く周知する事ができ、多くの人に参加してもらう事で前向きに地域を良くする脳を鍛えることが出来た。  
ブレストで生まれたアイデアを実行するプロジェクトがいくつも生まれ、仲間ができて、実現に繋がり、人と人、人と地域を繋ぐ事が出来た。

## ○活動概要

地域で小さな挑戦にチャレンジしようとしている方をアイデアで応援する。  
ジブンゴトとして話を聞いてブレストを行うことにより、より良いアイデアが生まれ、人と人、人と地域が繋がり、地域の活性化へ繋がる。

## ○具体的な内容

### ◆活動内容

年4回のブレストイベントの開催

1回：6月4日 2回：9月12日 3回：12月7日 4回：3月12日（延期）

開催時間：19：00～21：00

開催場所：旧八女郡役所（6月のみ黒木町南仙荘）

参加人数：各回30～40名程度

人の意見を否定せず、質より量にこだわったアイデア出しのトレーニングを積むことで、前向きに地域を良くする脳を鍛え、人と人、人と地域をつなぐ事をテーマとした。定期的な開催により広く周知を図って話題性を高めていった。

### ◆成果

- ・各回30～40名の集客があり、人と人を繋ぐ事が出来た。
- ・各回2～3プロジェクトが立ち上がり人と地域を繋ぐ事が出来た。
- ・話題性が上がり県外との繋がりが出来た。（鎌倉、福岡、高知）

### ◆課題

集客が一番の課題であり、集客方法は現在 Facebook をメインに行っているが、他の SNS を活用して集客率を上げていく。（チラシ配布の方法の見直しも行っていく。）

## ○今後の方向性

コロナウイルスの影響により3月開催分に関しては延期せざるおえず、現在オンライン開催に向けて準備を行っている。

オンラインで行うことにより参加のハードルは下がるので、どうやって集客につなげていくかが課題となる。

令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業  
活動報告書

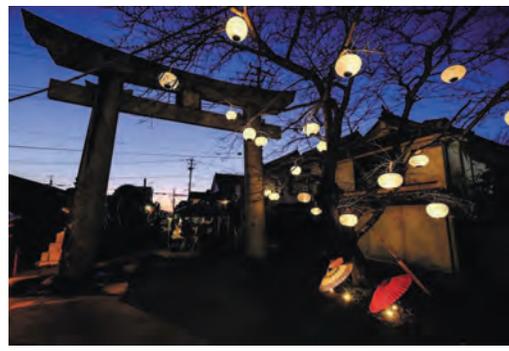
○団体名～活動名称～

LIGHT UP SHOW 実行委員会

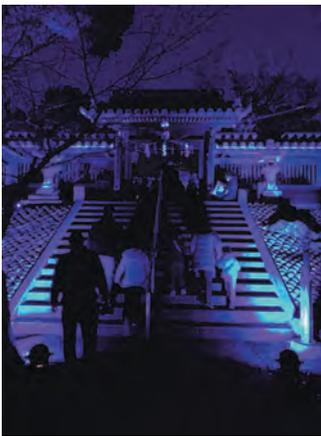
燈 -TOMOSHIBI-

ともしび 燈

“New  
Yame  
City



一燈  
照隅



八女  
～あなたらしいまちづくり～  
みんなの力でまちを盛り上げる  
まちづくりの未来を創る  
八女市広報 HP <http://www.city.yama.fukuoka.jp/>  
編集局 発行 八女市 企画編集課 TEL.0943(23)11110  
FAX.0943(23)3344-6565 郵便番号 八女市 816-0478

2020  
令和2年  
4.15  
No.1183

幻想的な光が地域を明るく灯す  
さまざまなありが地帯を飾る、幻想的な空間を演出するイベント「燈-TOMOSHIBI」が、3月14日に福島八幡宮で行われました。光や音、キンドルなどを使って装飾された煌びやかな会場には、多くの人が集まりました。プロジェクションマッピングでは、カラフルで美しい映像が魅了し出されました。その他にも、ファイヤードンサーや演奏等のステージパフォーマンスが行われました。会場からは拍手や歓声が聴こえ、幻想的な世界に参加者の心も明るく照らされているようでした。

①地帯に照らされるプロジェクションマッピング、②キンドルで飾られた会場、③LIVEパフォーマンス

イベント開催に当たり、福島八幡宮の歴史を伝えるため、プロジェクションマッピングを実施し、会場を盛り上げることにしました。

○団体情報

〈設立目的〉地域活性化活動

- ・自然、史跡、伝統芸能等の地域資源の発掘及び活用
- ・観光・交流イベントの新設又は既存イベントの規模拡大

〈団体構成員 18名〉

〈設立 令和元年 8月 29日〉

○これまでの実績

2020年3月14日イベント開催

○活動概要

祭典の際に「あかり」を謳う八女市に新たに光の演出イベントを根付かせたくて企画しました。光が灯るのは幻想的で厳かな心になる。また近年は撮影映える演出を行う事で遠方からも客寄せができる可能性が多いに有る。光の空間は老若男女と共有する事ができる。八女市の歴史、地域施設に興味を持っていただきたい。八女市で未だ行われていないプロジェクションマッピングの演出を実施いたしました。

## 燈 TOMOSHIBI

燈という漢字には、仏の教え、という意味もあります。  
 「燈」は火が登ると書きます。転じて燃立つ火のことを表しています。火は古来神聖なものでした。  
 ともしびとは、ともした火のことをさします。  
 古語では松明を意味する言葉ですが、ともしびは小さな灯のことを表しています。  
 ともしびの意味にある「明るい」は、もともとは「窓から月の光が差し込んで明るい」という意味です。  
 このことから「火」を灯すと、暗い部屋の中が明るくなる、  
 暗闇では見えなかったものがはっきりと見えるようになるということから、  
 周囲を明るく照らすものを「ともしび」と表現するようになりました。

## 一燈照隅 万燈照国

(いっとうしょうぐうばんとうしょうこう)

「自分自身が置かれたその場所で精一杯努力し、明るく光り輝こう。  
 一人一人の光は小さくても、たくさんの方が集まれば、それはやがて国中を照らす大きな光になる。」  
 燈という字は、この火を高く掲げ持つことを表しています。  
 掲げ持った火は遠くからでも見つけることができます。  
 闇夜を歩く中、暗闇にともる暖かな炎の色を見てどんなに安心したことでしょう。  
 また火は周囲の闇を覆います。そのため周囲を明るく照らすという意味を持ちました。

《日程》令和2年 3月14日(土) 開催(雨天決行) 《開催場所》福島八幡宮

昼の部 (12:00-18:00)

【にぎわい横丁】

(出店)

- ・SUWAVE (糸島)
- ・kawachiya (糸島)
- ・Hi-Time
- ・立花ワイン
- ・幾里人珈琲 (浮羽)
- ・たこやきナッピー
- ・Sorciere
- ・うずしお (柳川)
- ・アズマックスファーム
- ・baji cafe (筑後)

- ・木下農園
- ・JERKY JZ
- ・モリネットィー
- ・あらかると
- ・GREEN PIECE
- ・TOBIKATAYA
- ・maru sankaku shikaku ( 広川)
- ・福島八幡宮 開運面談
- ・ペレソソ (広川)
- ・T-born
- ・真実の似顔絵師 Manabith

(舞台)

【特設おしゃべり台】

トークショー  
 (MC: Yokku 溝口 & ゲスト)

【音楽番台】

- ・DJ Manabith
- ・SAKAZUKI
- ・糸繰 正
- ・ドミニク
- ・ピエロック一座

《御協賛》

- ・西日本新聞 AC 福島 様
- ・株式会社アズマ 様
- ・株式会社ニシコーフードサービス 様
- ・大石物産 様
- ・有限会社ティーボーン 様

《後援》

- ・八女市
- ・LemonAid
- ・GreenPiece
- ・New Yame City
- ・Herbay
- ・うきはのあん
- ・Yame design
- ・(有) 牛嶋住興
- ・入江農園
- ・土橋市場 neu
- ・朝倉市黒川 共星の里
- ・福島八幡宮
- ・SunSet crew
- ・セブンイレブン山口八反田店
- ・あらかると
- ・宣伝協力してくれた皆さん

夜の部 (18:00-21:00)

【燈 披露】

- ・UNA Visualized (プロジェクションマッピング/ライティングデザイン)

【投げ銭 演目】

- ・草雲雀 (ファイヤーダンス)
- ・柳 和暢 (ライブアート)
- ・hou (唄)

〈VJ〉UNA Visualized

〈PA〉Herbay

〈DJ〉andy

開催にあたりまして新型コロナウイルス感染症の対策として近隣に入念の挨拶周り、保健所や行政との確認、イベント会場内では・マスクをお持ちの方のみ入場可能(子供含む)・マスクをお持ちではない方は簡易な手作りマスクを配布(限定500枚)  
 ※あくまでも飛沫感染防止対策の簡易マスク。マスク不足で、各地で市販流出している物は本当に必要な方が最優先と考え、  
 当会場で市販品のマスク配布はおこなわず、不安な方は御自分で準備、または入場されないよう御理解を求め、会場内でマスクをされていない方は入場を断らせていただき御理解と御協力を宜しく御願いました。  
 ・アルコール消毒の御協力を、みなさまが安全に御来場できるよう厳格に入場口にて関所を設置して一人づつ主催者が確認して対応した。  
 関係者、出店、休憩ブースも同様に厳重にマスクと消毒、見回りをおこないました。  
 感染発覚が解る2週間後まで、運営はしっかりと御来場の皆様の体調がご無事であるよう緊張感を抱いて向き合いました。

## ○今後の方向性

いろんな地域の異業種と繋げ交流できる活動イベントを毎年、定期的で開催して、多くの集客を八女市にもたらし、より多くの八女市住民の老若男女に興味をもってもらい物作りや商人、他団体の活性化なる刺激や文化の発展、多くの繋がりをもって地域復興を図る催しとして八女市の文化として根付かせる。今回、実績を築けたので協力者を増やして独自展開を目指す。  
 次回、より沢山の方が純粋に楽しみに足を運んでいただけるように、または新型コロナウイルス感染症等の社会情勢影響による事態によって様々な形態が変わったとしても楽しみの燈にさせていただけるように、精進してまいります。

代表 江崎 健

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

八女ファミリー林業塾

～八女ファミリー林業家育成事業～

## ○団体情報

### <設立目的>

中山間地では高齢化や人口流出により地域の担い手がいなくなっている。大きな理由は生活できる安定した産業が無い事で地域の大きな面積を占めている森林を活用し地域を守りながら生活していくファミリー林業家を育てる事で中山間地域の活性化を図りたい。

### <団体の構成員>

4名

### <設立年月日>

令和元年12月1日



## ○これまでの実績

### ・講演会

九州大学 佐藤紀子教授

自伐林家 橋本光治氏

### ・間伐施業体験

令和元年12月から月に1度のペースで実施

### ・作業道整備研修

橋本光治氏による作業道の整備実演講習

## ○活動概要

林業は難しいとあきらめている方や山は持っているがどうしていいかわからないという方々を中心に林業に関心のある仲間を集い、本格的な”小さな林業”自伐型林業を学べる活動を行う。

## ○具体的な内容

◆スケジュール				
日程	会場	事業名	活動内容	参加者数
12月1日	オリナス 八女	創立記念講演会	自伐型林業の特徴と 役割等について	約60名
12月15日	星野村研修林	ファミリー林業体験	間伐施業体験	約15名
1月12日	そよかぜ	自伐林家講演会(午前)	自伐型林業推進協会講師 橋本光治氏	約20名
	星野村研修林	作業道踏査(午後)		
1月13日	星野村研修林	作業道路整備研修会	自伐型林業推進協会講師 橋本光治氏	約20名
2月9日	星野村研修林	ファミリー林業実技	間伐施業体験	約15名

◆成果

ほとんどの塾生が林業に従事したことがない方で、チェーンソーを触るのも初めてという状態から塾はスタートしたが、多くの方に毎回のご参加を頂き、塾生の中でコミュニケーションが生まれていっているのが見てとれ、初年度の取り組みとして充実していたように感じる。

◆課題

新型コロナウイルスの影響による社会情勢下での対応、さらなるコミュニケーション、情報の発信・共有

## ○今後の方向性

<p>実際に自伐型林業で必要なチェーンソーによる伐木等の業務特別講習や車両系小型建設機械運転技能講習を組み込み、塾生それぞれの技術習得と熟練を図る。また、橋本光治氏の山の視察訪問、九州各地にある各関連団体との連携も図っていく予定。</p>
---

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

### 八女福島文芸座

～ふくしま元気もん祭り『第2の人生いきがづくりプロジェクト』～

## ○団体情報

### <設立目的>

江戸～昭和に栄えた八女福島の歴史的市街地で、昭和20年代後半の文芸座をはじめとした劇場文化の賑わいは目覚ましいものでした。「福島文芸座の復興」を目標に、市民と行政の協働による文化、文芸の活動を通じて地域振興を目指す。

### <団体の構成員>

15人

### <設立年月日>

平成23年4月15日



## ○これまでの実績

○平成22年9月中旬～10月下旬

任意団体・八女福島文芸座を設立。

○平成22年10月31日

福島文芸座の初公演。市民有志も準備活動に参画。※参加者約200名

○平成23年年4月15日

特定非営利活動法人・八女福島文芸座の設立。※まちづくり参画のために

～公演開催（複数回）～

○平成31年3月 特定非営利活動法人としては解散

## ○活動概要

社会的な高齢化により、様々な特技や経験を持つ自立した元気な高齢者の存在は、今後のまちづくりを支える人材として期待されている。

退職を迎える世代が、今後生きがいを感じながら元気に暮らしていくために、みんなで考える「交流の場」を創出する。

「元気な第2の人生」をテーマに、生きがいを感じながら生涯学習を楽しんであるグループに呼びかけ、自分たちの活動の成果発表ができる交流イベントを開催する。

## ○具体的な内容

職場を退職したのちに、いきなり地域とのつながりを求められる人は、今後多くなってくると思われる。そのような人たちに、活動団体を紹介し、マッチングできるイベントを企画した。

八女市内で活動している団体に呼びかけ、「八女福島文芸座」、「アートフリー」、「オリオリ フラ オハナ」の3団体で「ふくしま元気もん祭り」を3月8日に開催することに決定した。

### 【ステージ内容】※コロナウイルス感染防止のため中止

日 時 令和2年3月8日（日）

会 場 おりなす八女大ホール

名 称 ふくしま元気もん祭り～第2の人生いきがづくりプロジェクト～

活 動 12:30～15:30

①講演 近藤千種氏

演目 人生100年時代をキラキラ生きるために

②ダンス・文化芸能ステージ

代表者会議を2回開催し、チケット販売やステージプログラムの打合わせ、当日ステージでの活動紹介の打合せなどを行った。

合同練習などを含め16回（12月～2月）の練習を重ね、3月8日のイベント開催に備えていたが、コロナウイルスが発生し感染防止のためにイベントの自粛要請が出た。サブタイトルにもあるように、第2の人生を迎える皆様に、ステージを楽しんでいただくことを目的とするイベントのため、病気を発症させてはいけないと判断し、今年度の開催中止を決定した。

### 【苦労した点】

11月採択で講演会を3月8日に予定して進めていたため、練習できるのが短期間になり、仕事の関係で合同練習の日程調整に苦労した。

今回、多くの社会人男性が日舞に挑戦しましたが、振付などの動画を撮影し、ラインで動画の共有をして、個人練習をきっちり行うことができたため、合同練習を円滑に行うことができた。また、上手くできてないところなどは、合同練習時に、動画撮影をして、互いに「練習のおさらい」ができるような動画作成も行いコメントすることで、チームワークの強化にもつながった。

## ○今後の方向性

定期的にイベントを開催し、体を動かす仲間づくりの場を提供。

また、今回の活動を通じて生まれた新たな人の繋がりを活かして、八女市のまちづくりに寄与する。

# 令和元年度市民との協働によるまちづくり提案事業 活動報告書

## ○団体名～活動名称～

劇団 「大藤」  
～「剣ヶ淵物語」再興プロジェクト～

## ○団体情報

### <設立目的>

明るく、元気で、楽しく、仲良くをモットーに演劇活動を通じ、個人の資質を向上させ、個人の人生を豊かにするために活動することを目的とする。

### <団員の構成員>

15名

### <設立年月日>

平成27年12月1日



## ○これまでの実績

平成28年	1月～3月	FM八女	ラジオ劇「藤の記憶」出演・制作（5月放送）
	4月15日	黒木大藤神酒	召せ式出演
	10月8日	黒木町社会福祉大会	ミュージカル劇「藤の記憶」公演
	11月27日	ワイワイフェスタ参加	「葉っぱのフレディ」朗読
	12月21日	劇団大藤	感謝コンサート「ふじの里」で開催
平成29年	9月24日		「藤の記憶ダイジェスト」国民文化祭参加作品プレ公演
	11月29日		国民文化祭「奈良2017」「藤の記憶ダイジェスト」上演
平成31年	3月9日		「朗読と音楽の心あたたまるTOKI」重松清作品朗読劇上演

## ○活動概要

九州南朝最期の皇子「良成親王様」とその妃といわれる「姫御前様」の地元には言い伝えられる悲恋をミュージカル劇として上演した。  
また地元八女の歴史や民話等をオリジナル脚本で上演し「故郷八女」の素晴らしさを市民にミュージカル劇で伝えることを活動としている。

## ○具体的な内容

令和元年7月～ 黒木町「ふじの里」で毎週水曜日午後7時～9時まで練習開始  
オリジナル台本配布・本読み

8月～ 配役決定、立ち稽古、ダンス練習開始

10月 「ていこい白木」でプレ公演参加

11月 オリジナル曲4曲を追加し、練習開始

令和2年1月18日（土）19時～公開ゲネプロ

場所 黒木町開発センター

参加人数 出演者11名、伴奏者2名、現場スタッフ10名

音響照明4名、観客動員20名

令和2年1月19日（日）

第1回 公演 13時～14時40分 観客動員数278名

第2回 公演 17時～18時40分 観客動員数271名

参加人数 出演者11名、伴奏者2名、現場スタッフ15名

音響照明4名、観客動員20名、駐車場警備2名

（成果）

現在、「剣ヶ淵物語」に関する神事が「下木屋」「本分築地」「八女市柳島」で執り行われていますが、このミュージカル劇を上演することでより身近な物語として市民に感じていただき、今まで点であった3か所での神事が線となり繋がって後世に語り継がれていくことのお手伝いになったら良いと思いました。この古くからのお話が私たちの心に「郷土に対する愛情」として深く浸透していくと嬉しいと思いました。

（苦労した点）

- ①練習場所の確保が難しい（広い場所で長時間だと費用が高い）。
- ②時代背景に似合った衣装の制作に時間と費用が必要。（今回も多くの方のお力をお貸しいただきました。）
- ③ 公演費用を赤字を出さずに上演すること。（今後の課題です。）

## ○今後の方向性

舞台芸術は一日では作り上げることができません。長い時間の練習と努力が必要です。その成果が2時間の本番に全て現れるのです。2時間の夢のような時間はあっという間に終わります。しかし、その劇場の空間には演者と観客が一体となった言葉では言い表すことができないエネルギーが生まれ、その時間を体験する感動がこれまでの練習の大変さを全て喜びに変えてくれます。劇団員だけではなく、会場にお越しいただいた市民の皆様も熱い気持ちになり、会場をあとにされたと思います。そういう意味で改めて大変なことが多い活動ではありますが、これからも継続していければと思っています。

茶のくに  
八女・奥八女

CHANOKUNI YAME OKUYAME